



諏訪湖通信67号

令和6年1月19日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



諏訪湖の案内人(仮称) ワーキンググループ報告

諏訪湖創生ビジョンに基づく「諏訪湖の案内人(仮称)」※育成について、令和3年度から検討してきたところですが、来年度以降の養成講座開講に向け、今年度は諏訪地域で観光ガイドとして活躍している「諏訪湖エリアまちなか観光案内人協会」の皆さんをオブザーバーに招き、2回のワーキンググループを開催しました。令和3年度にまとめた「諏訪湖の案内人(仮称)」の養成方法の基本的な考え方をもとに、講座の内容や名称について意見交換を行いました。

※諏訪湖の案内人(仮称)とは、諏訪湖の水環境の価値と魅力を地域住民、観光客等に伝え、諏訪湖への関心を高めてくれる人材

名称の議論では、これまでの検討で候補として挙げられた24個の名称案を参考にしながら「対外的にわかりやすいもの」、「案内人として楽しく活動できるもの」、「外国人観光客にも伝わるもの」にすべきなどの意見が出され、最終的に3つの候補(「諏訪湖の案内人」「諏訪湖ガイド」「諏訪湖マイスター」)に絞られました。講座内容については、「諏訪湖の水環境の知識に重きを置きながらも、観光・おもてなしのスキルも習得」、「自然環境や地質・地形的な成り立ちを観光視点で伝えることや天竜川の起点である諏訪湖の水がどのように使われているかを知ることなども学べると面白い」などの意見が出され、カリキュラムは、フィールドワークも含め15コマ程度を想定していくこととなりました。

検討結果をもとに、実施主体となる予定の諏訪湖環境研究センター(仮称)を中心に、来年度詳細を詰め、養成を行っていきます。



メガネサナエのモニタリング調査を実施しています

メガネサナエは、諏訪湖、琵琶湖及び愛知県の一部のみに生息する希少なトンボで、環境省レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に、長野県版レッドリストでは絶滅危惧ⅠB類に区分されています。

諏訪湖創生ビジョンでは、メガネサナエを生態系改善の指標種としており、毎年モニタリング調査(成虫調査及び羽化殻調査)を行っています。また、専門家や関係者が集まり保全のための手法等について検討を行う会議や、小中学校での啓発等を行い、諏訪湖の生態系改善のための取組を進めています。

※【成虫調査(R元~)】成虫の繁殖活動期に繁殖場所の川沿いで、一定区間を歩きながら目視で出現数をカウントし、その結果を気象条件や確認場所とともに記録しています。

※【羽化殻調査(R2~)】メガネサナエの羽化期にあたる7月中旬~8月上旬に、諏訪湖の棧橋や岸壁で見られたメガネサナエの羽化殻数をカウントします。ウチワヤンマ、オオヤマトンボ、コフキトンボ等、その他のトンボの羽化殻数についても併せて調査しています。



飛翔するメガネサナエ(2023.9.29) メガネサナエの羽化殻を観察する中学生

諏訪湖環境研究センター(仮称) センター長内定者の高村さんが諏訪湖を視察しました

令和6年4月の諏訪湖環境研究センター開所に向け、昨年10月から12月にかけての3日間、センター長内定者である高村典子さんが諏訪湖やその流域の現地視察を行いました。

10月、11月は諏訪湖を中心に、1日目は、諏訪建設事務所職員とともに諏訪湖を1周しながら諏訪湖水辺整備基本計画に基づく各ゾーニング地点を視察し、諏訪湖と地域の関わりについて理解を深めました。

2日目は、水産試験場諏訪支場にて、ワカサギやテナガエビ等諏訪湖の水産資源についての説明を受けるとともに、信州大学諏訪臨湖実験所を訪問し、宮原先生、笠原先生や学生の皆さんの研究についてお聞きし、センター開所後の連携等について意見交換を行いました。

12月の視察では、流域面積が大きい主要河川である上川・宮川集水域において、河川の様子や茅野市、富士見町、原村の農業用水路の整備の様子等を確認し、流域を含めた今後の取組や課題について情報収集を行いました。



現地視察の様子(諏訪湖周)

現地視察の様子(上川)

《諏訪湖環境研究センター(仮称)とは》

諏訪湖をはじめとした県内河川・湖沼の水環境保全に係る県の研究機関。岡谷市にある長野県男女共同参画センターの建物の一部を活用し、令和6年4月開所予定。

カモ類の生息数調査を実施しました

1月15日(月)、諏訪湖及び周囲の流入河川、天竜川においてカモ類の生息数調査を実施しました。

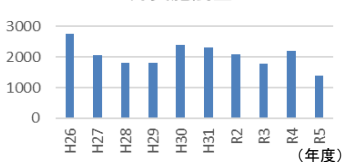
この調査はカモ類の種類別個体数や季節的変化を把握することを目的に、平成5年から年3回、諏訪地域振興局林務課主体で実施しているものです。

調査は林務課職員、県鳥獣保護管理員、諏訪市職員13名が4班に分かれ、スコープや双眼鏡を用いて種類別に数をカウントし、結果1,402羽のカモ類を確認しました。

魚食性鳥類ではカワアイサ158羽(昨年同期505羽)、カワウ123羽(昨年同期83羽)を確認しました。

今回の調査結果は、1月調査としては調査開始以降個体数が最少となりました。暖冬の影響(冬鳥の渡りの変化、諏訪湖が結氷しない等)などが考えられますが、引き続き調査を実施し、個体数の推移を確認してまいります。

個体数の推移(過去10年間) 1月実施調査



調査の様子

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901